

# 礼文町立香深井小学校研究発表



平成27年9月18日

本校は、全校児童9名の小さな学校です。

保護者には本校の卒業生や地元出身の方が多く、地域に支えられ、地域に愛されながら教育活動を進め、今年で開校121年を迎えました。

目指す子ども像は「元気な子・明るい子・考える子・がんばる子」の4点です。

## (1) 目指す子ども像と児童の実態

元気な子  
明るい子  
考える子  
がんばる子

## (1) 目指す子ども像と児童の実態

元気な子・明るい子・がんばる子

- 明るく・素直
- 外遊び・マラソン
- 挨拶・言葉遣い
- 粘り強く取り組む

本校の児童は人懐っこく、明るく素直です。

夏の間は毎日学校の周りで外遊びをしたり、放課後マラソンで体を動かしたりしています。あいさつも

比較的しっかりとでき、言葉づかいもていねいです。また、課題に粘り強く取り組む意欲を持っています。

一方で「考える子」という目標については課題も見られます。

事前に準備を重ねたことは落ち着いて堂々と発表できるのですが、その場の流れに応じた受け答えが求められる状況では臨機応変な対応が取れず、困惑してしまうこともあります。相手の言葉を正しく理解したり、文章を正しく読み取ったり、自分の思いを表現したりすることに苦手意識を抱いている子も少なくありません。そのような児童の実態を踏まえ、多様な課題を持つ子どもたちが、より大きな集団へ生活の場を移しても、人と関わり合いながら学び続けていけるよう、「自ら考え、かかわりあい、伝え合う子どもの育成」という研究主題を設定しました。

### (1) 目指す子ども像と児童の実態

## 考える子

- △ 臨機応変
- △ 内容を正しく理解
- △ 思いを表現
- △ 習得に時間

### (2) 研究主題

「自ら考え、かかわり合い、  
伝え合う子どもの育成」



研究仮説は3つあります。

1つめは「導入において、学習内容への期待感を高めることにより、自ら課題を持ち、意欲的に学習に取り組ませることができるだろう」、2つめは「個に応じた指導・支援を充実させることで、学習内容を正確に理解することができるだろう」、そして3つめは「人と関わり多様な意見に触れることで思考を深め、思いや考えを自分の言葉で伝えることができるだろう」です。

### (3) 研究仮説

#### 仮説1

導入において、学習内容への期待感を高めることにより、自ら課題を持ち、意欲的に学習に取り組ませることができるだろう。

#### 仮説2

個に応じた指導・支援を充実させることで、学習内容を正確に理解することができるだろう。

#### 仮説3

人と関わり多様な意見に触れることで思考を深め、思いや考えを自分の言葉で伝えることができるだろう。

このように3つの仮説をもとに授業づくりに取り組んでいますが、今年度はその中でも特に「個に応じた支援の充実」と「人との関わりで学びを深める」の2つのことを重点に位置づけています。

### (3) 研究仮説 実践例

#### 仮説2 個に応じた支援の実践例

△授業交流週間での評価＝1.5

**必ず既習事項に立ち返る**  
**イラストでの課題提示**  
**支援員による取り出し指導**

困っている子への支援の充実がみんなの為に

### (3) 研究仮説 実践例

#### 仮説3 多様な意見に触れる実践例

△一人学びの学年が多い

**架空の友達の設定**  
**他学年の書いた文を紹介**  
**上級生のノートを活用**

多様な意見に触れることで思考を深める

それでは研究仮説2と3の実践についてお話しします。

まずは「個に応じた支援」の充実です。

1学期に授業交流週間を行いました。その時の評価シートでは、この項目が3段階評価で平均1.5ポイントと低い値を示しました。重点として捉えてはいるものの、本校の授業づくりにおいて、個に応じた支援が十分に生かされていない現状が見て取れました。そこで3つの手立てを試みることにしました。

1つめは徹底的な「既習事項への立ち返り」です。その授業での課題解決に必要な既習事項が定着していない児童もいるため、必要な既習事項に立ち返る場面を必ず設けています。2つめは「イラストでの課題提示」です。言葉だけでは理解に時間のかかる児童に対して、イラストを同時に提示することで課題の理解を容易にしました。3つめは支援員による「取り出し指導」です。習得に時間のかかる児童に対して、ていねいな指導を心がけています。これらは全て、「困っている子への指導の充実がみんなのためになる」という考えを基本に置いて進めています。一人ひとりに合わせた支援を行うことで力がつき、授業の中でも達成感を味わえるようになってきました。

次に仮説3「多様な意見に触れる」の実践例です。

本校は5学年中、3つの学年が1人学年であり、一人学びをしている児童が多いのが特徴です。少人数の学びの中で、いかに多様な意見に触れるかという点を工夫して、実践を進めています。1つめは「架空の友達」の設定です。実際はいない架空の友達を授業の中に登場させ、発言させることにより多様な意見の交流が生まれるようになりました。児童も自分たちで架空の友達の名前を考えるなどして楽しんでます。2つめは「他学年の書いた文章の紹介」です。国語の授業において、他学年の児童に例文を書いてもらい、それを授業の中で紹介しました。相手の顔が見える非常に良い手立てでしたが、書いてもらう側の負担も大きいため、頻繁に行うのは難しいという短所もありました。最後は「上級生のノートの活用」です。理科で実験の予想をする際に、「今年の〇〇くんはこう考えていたよ」と過去のノートを通して意見を紹介しています。上級生のノートについては、本格的な活用はまだこれからの段階ですが、他の児童の負担の軽減という点では効果的な取組だと考えています。一人学びでは難しい、多様な意見に触れる手立てを取り入れることで、児童は他者の意見を聞いて考えを深めることができるようになりました。

授業以外での実践についても紹介します。

「個に応じた支援」の実践例は3つ。1つめは入学前の教育相談です。新入生の保護者の不安や願いを把握する目的で行ったもので、入学に向け、どの家庭も安心できる子育て支援を進めました。2つめは学校・教育委員会・町の保健師の三者で行ったケース会議です。新入学児童の実態や、取り巻く様々な状況について考え合うことができました。3つめは個人シートです。運動会や学芸会などの大きな行事の前後に、つけたい力や成長した点などを交流し、記録しています。その子の成長を長期にわたってふりかえることができるものを目指しています。

#### (4) 個に応じた支援 実践例

##### 入学前の教育相談

新入生保護者の不安や願いを把握

##### 三者でのケース会議

学校・教育委員会・保健師で児童の交流

##### 個人シート

つけたい力・成長した点を記録

#### (5) 人との関わり 実践例



昆布干し

#### (5) 人との関わり 実践例



観光大使活動

#### (5) 人との関わり 実践例



小小交流

#### (5) 人との関わり 実践例



保小交流

「人との関わりに学ぶ」実践例も紹介します。

1つめは昆布干しです。地域の漁師さんにお世話になり、採苗・巻きつけ・昆布干しという養殖昆布栽培の一連の作業を体験させてもらっています。干した昆布を包装し、フェリーターミナルで配布する観光大使活動を行い、たいへん喜んでいただきました。2つめは保小交流による絵本の読み聞かせです。全校生が交代で保育所に出かけ、実施しています。最後は小小の交流です。隣の礼文小学校と合同で授業を行う取組を続けています。高学年は外国語活動を行っています。これらの活動を通して相手意識が育ち、自分の思いを上手く伝えられるようになってきました。これからも「個に応じた支援の充実」と「人との関わりの中で学びを深める」ことを大事に、9名の児童を育てていきたいと考えています。